



平成25年度

第10回みみらんどセミナー

授業公開・研究協議会・事例検討会

☆ 実施日時 ☆ 平成25年11月1日(金) 13:00~16:30

☆ テーマ ☆ 「授業公開・研究協議会(算数科)・事例検討会」

☆ 講師 ☆ 筑波大学附属聴覚特別支援学校
小学部主事 関 圭子 先生

第11回みみらんどセミナーの概要をご報告します。

授業公開では、小学部1年生の算数「のこりはいくつ ちがいはいくつ」の授業を行いました。文章の意味を丁寧に確認しながら、求補の場合の減法計算を考えさせる内容でした。「黒いうさぎも白いうさぎもどちらもうさぎである」「閉じた傘も開いた傘もどちらも傘である」ということを、身振りを交えたりブロック操作をしたりしながら捉えていました。



その後の研究協議会は、公開授業を基にした話し合いと話題を基にした話し合いの2本立てで行いました。公開授業を基にした話し合いでは、今回の授業の対象児以外にもブロックと絵(うさぎや傘)を結び付けるのが難しい児童が多いので、そこを丁寧に行うことで意味付けもできるのではないかとの話が出ました。算数なので、どこまで言葉や問題文の意味をおさえるかは児童の実態と併せて教師が考えを持っておく必要があることを再認識しました。関先生からは、「分かっている数は何か」「分からない数は何か」「どうしてひきざんになるのか」「どうすれば答えが分かるのか」等について教師が質問して子ども自身に表現させることで、理解度を把握して授業を組み立てることができる、とのご助言をいただきました。福島分校は小規模校であるため、幼稚部から6年生まで一貫した指導法やルール作りをすることで系統的な学習の積み上げが可能である、といった今後の展望へつながるご指摘もいただきました。後半は、「算数科指導において、イメージや算数的理解の深化を図るために繰り返し学習を積み重ねているが、定着が難しく、系統的に積み上げられないこともある。その指導法はどうあるべきか、またどんな力を身につけさせるべきか。」という話題を基に話し合いを行いました。教員一人一人が、現在実践の中で心がけていることや考えを発表し合い、関先生からのアドバイスをいただきました。教科書に沿ってあれもこれもと詰め込みすぎたとしても、「これは子どもたちが将来どう生活で使うのか」に視点を置くと、楽に進めることができ、教師側が「どうしてできないの!」と焦ることなく互いに良好な関係で進められる、とのお



話や、最近のデータで子どもたちの「算数の力」と「読解力」が密接に結びついている結果が出たという情報を提供していただきました。「ある数を10で割る」「ある数で10を割る」というように、算数も言葉がいかに大事であるかが改めて分かりました。日頃の自身の経験と重ね合わせてか、共感できるアドバイスにうなずく教員が多数見られました。